トマトジュレ本格販売へ

甘さ濃厚、勝負の一品

三種町 成田建設

異業種参入による収益増を目指し、ミニトマト生産に取り組む三種町鵜川の成田建設（成田保社長）が7月上旬から、ミニトマトを凝縮したジュレ（ゼリー）を本格販売する。昨秋の試験販売で好評だったため、ミニトマトと並ぶ主力商品として売り出す。公共工事先細りで本業苦戦が続く中、「今年は勝負の年」と農業を軌道に乗せたい考えだ。

7月上旬から販売するミニトマトを使ったジュレ

同社が手掛けるミニトマトは、もみ殻に米ぬかなどを混ぜ合わせた自家製の堆肥や無農薬栽培にこだわった濃厚な甘さが特徴。2006年の第129回県種苗交換会では知事賞を受賞した。

ミニトマトをより手軽に味わってもらおうと昨年、社員の提案でジュレを開発。ミニトマトをすりつぶして寒天状にしたもので、中にはそのままの形のミニトマト2個が入っている。賞味期限は5日間と短いが、「保存料を使っていない証し。それも売りにしたい」と佐藤守総務部長。昨秋、秋田空港で2度試食販売したところ、いずれも準備した約100個を完売した。

佐藤総務部長は「1個で数円の利益かもしれないが、会社を支えることにつながる。厳しい環境に苦しむ同業者の励みになれば」と話している。

成田建設は土木、建築で県の格付けA級。県発注工事の07年度受注額は約5億円。成田社長は5年前、無農薬栽培に力を入れる知人農家からトマト栽培を勧められたのをきっかけに、新規事業への挑戦を決意。06年7月に同町浜田に土地約1200平方㍍を購入し「みのり農園」を整備、ミニトマト栽培を本格化させた。

ジュレは1個、280円。予約を受け付けている。問い合わせは成田建設☎01-85・85・2401

成田建設が異業種参入の一環として生産しているミニトマト